

山形講座通信



「社会人力育成山形講座」は、山形県内の多様な教育資源を取り入れながら、国公私立の枠を超えた山形県内の高等教育機関、自治体および経済界が連携した共同教育プログラムです。これにより学生の社会人力（コミュニケーション力・課題解決力・リーダーシップ）を育成します。各授業の様子や本取組の詳細は以下のホームページに掲載しております。（<http://sodateru-y.jp/>）

授業紹介

山形フィールドワーク教育科目 「感じる山形」

山形大学 プロジェクト教員 滝澤 匡



「感じる山形 ～教科書の向こう側へ～」では、山形県の素晴らしい地域の魅力を体験的に学習します。指導いただく講師は、それを作り上げてこられた地元の担い手の方々です。副題が示すように、講師の方から指導される内容は教科書に載らない生きた情報であり、教科書のページのように限られたものではありません。何を、どれだけ学ぶかは、受講生の姿勢次第です。

26年度の授業では、地域が持つ自然、文化、歴史、産業、まちづくりなどを学ぶ6つの体験プログラムを開講します（裏面の「山形講座で学ぶ地域の魅力」を参照）。例えば、前期の「山形の森づくり体験」では、企業と県が行う森林保

全活動に参加し、山形の豊かな森林を守り育て活用することを学びます。また、後期の「雪と共に生きる体験」では、尾花沢市で雪囲いや高齢者宅の除雪を行い、雪との生活のご苦労とそこから生まれた知恵と共助の精神を学びます。4日間の現地での活動を通じて、山形を深く知り、好きになることが期待されます。

複数の大学から受講生が集まり、多様な交流が図られるのもこの授業の特徴です。初年度は他大学からの受講者が4割を超え、同質な学生が集まりがちな大学の授業にあって、専門や背景の異なる同世代と出会う貴重な機会となっています。

以上のように、「感じる山形」では山形の魅力に触れながら、地元講師や学生との協働を通じて、組織での活動に必要なコミュニケーション力の養成を図ります。この授業が、山形講座の目標である「地域を支える人材の輩出」に貢献するものと確信しています。

受講生の声

私は、前期に長井市で行われた「台所と農業をつなぐ地域循環型農業体験」と、後期に山形市柏倉地区で行われた「地域のにぎわいづくり体験」を受講しました。山形県内の地域が持つ特色や魅力を生かした体験や、地域が持つ課題を体験しながら解決することができるので、受講しました。演習では、朝から晩まで農作業をして汗を流したり、演習先の地域の方と共におまつりの運営に参加したりしました。普段の大学での講義や演習では味わうことのできな

東北公益文科大学 公益学部 2年 黒澤 祐太



い、現場の雰囲気を感じることができます。感じる山形を受講することによって、山形の知らない魅力について気付くことができ、地域に対して誇りを持つことの大切さを学びました。この経験を今後の生き方に生かしていこうと思います。



「台所と農業をつなぐ地域循環型農業体験」での販売体験



「地域のにぎわいづくり体験」の干柿まつり



～授業を通じて地域に触れる～



東北文科大学 学部長 大川 健嗣

授業のねらいは、鮭川村の二つの「地域作り型イベント」に参加することをとおして、村びとのイベントに掛ける熱い「想い」を直接読み取ることにありました。約5千人が集まる鮭川村最大のイベント「第29回 まるごとさげがわ鮭まつり」（10.27）と現地調査対象集落・米（よね）地区の行事である「米湿原の冬支度作業と地区の収穫祭」への参加（11.4）が、今回の体験型学習でありました。6人（うち1名が山形大生）の受講生は、この2回のイベント参加をとおして様々な場面で驚きがあったり、考えさせられた点多々あったようです。鮭のつかみ獲りでは、受付作業と参加者が鮭の生簀で捕まえた鮭を袋詰めする作業等、イベント実行委員の一員としての役割を果たしました。また、米湿原の冬支度作業の手伝いでは、長靴を履いて、大量の草の搬送作業を村内外から参加したボランティアの方々と協

力して行いました。なら枯れの立木いっぱい鈴なりに付いていた天然ナメコなどを見ては、自然の豊かさを実感したようです。作業終了後、地区公民館で「収穫祭」が開かれ、つきたての餅をはじめ、参加者と懇談しながら美味しい食事をご馳走になりました。



米湿原の冬支度作業

活動報告

平成25年度 成果報告フォーラムを開催しました。

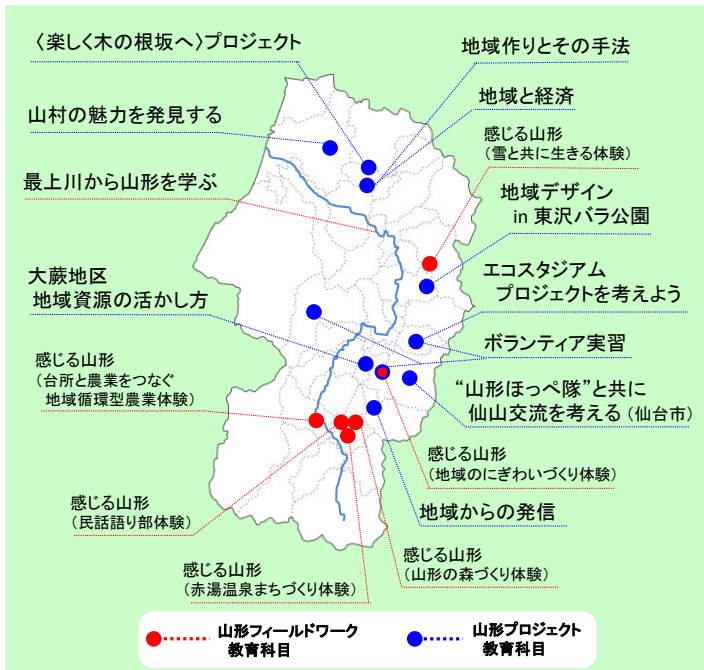
地域の皆様やステークホルダーの方々に加え、県外の大学関係者も訪れ、40名近い参加者でゆうキャンパス・ステーションがほぼ満席となりました。はじめに、実質的な活動初年度となる25年度の事業取組の報告として、5名の教員から4教育分野の授業成果が発表されました。会場から具体的な運営や学生の反応などへのご質問に加え、授業効果の評価方法や大学教育として質の保証システムなどを確立すべきとのご指摘を頂戴し、今後の山形講座の授業を考える上で非常に有意義な機会となりました。

パネルディスカッションでは、授業で講師を務めて下さった方々にご登壇頂き、「山形における人材育成」をテーマにご意見を頂戴しました。「厳しさを増す社会情勢の中、若者は自分の将来について真剣に考え抜かななくてはならない。」と熱いエールを頂くとともに、「学生との経験は非常に新鮮であった。彼らもやればできると実感した。」「機会を与えることで若者は成長する。まずは若者に任せ、年長者は見守ることも必要。」と地域や企業など組織全体で育てる必要性へも議論が盛り上がり、今後の事業展開にとって参考とすべきご意見がうかがえる、とても貴重な時間となりました。

文部科学省 大学間連携共同教育推進事業 選定取組全国シンポジウムで報告しました。

山形講座は地域連携分野の報告取組として選ばれ、事業活動を発表しました。山形大学・横井教授が事業概要と初年度の授業成果を報告し、パネルディスカッションにおいて発言しました。ポスター発表でも、他大学の人材育成事業関係者に向けて進捗状況を報告し、今後の課題などについて意見交換を行いました。

山形講座で学ぶ地域の魅力



スタッフ紹介

東北芸術工科大学
事務補佐員

田原 舞



私自身、昨年春に大学を卒業し、今まさに自分の社会力を高めるべく奮闘している毎日です。そのなかで、池田先生の「起業演習」のサポートを通して学生たちと触れ合うと、彼らのバイタリティの高さや好奇心の強さにとても驚かされます。ダメ出しをしても、むしろ喜んで果敢に挑戦してくる。そんな学生たちの姿勢を見ると、自分も見習わなければいけないととても身の引き締まる思いです。このような学生たちの勢いをのばしつつ、自分自身も学生と共に成長していけるよう邁進していきたいと思っております。